

様式(第7条関係) 阪神北地域医療構想調整会議 開催結果報告

会議名		第1回阪神北地域医療構想調整会議【非公開】
日 時		令和7年7月31日(木) 14:00～14:40
場 所		東リ いたみホール 多目的ホール
議 長		木村 忠史(三田市医師会 会長)
出席者		別添名簿のとおり
議事次第概要		1 協議事項 (1) 阪神圏域における病床配分について ・方向性と募集ホームページ案 (2) 公立学校共済組合 近畿中央病院の診療休止について 2 報告 (1) 「2040年在宅医療供給体制に向けての医療機関調査」結果について
内 容		詳細については、別紙のとおり
	協議が 調った事項	1 阪神圏域において、病床配分を希望される場合はより慎重に協議を行う旨を公表する。 2 近畿中央病院が令和8年3月に診療を休止するが、これまで進めてきた再編統合の枠組みを維持し、引き続き計画を進めていく。
次回以降の予定		未定
作 成 者		宝塚健康福祉事務所 企画課 奥野

1 協議事項

(1) 阪神圏域における病床配分について

説明	宝塚健康福祉事務所	○ 資料 1 に基づき説明。 ○ 阪神圏域において、現在病床は非過剰状態にあるが、2040年に向けた地域医療構想や国の動向などを注視していく必要があることから、「病床配分を行わない」ことで昨年度一旦合意が得られた。 ○ しかし圏域で既に病床配分を検討している医療機関があり、近畿中央病院や三田市民病院の跡地など、医療機関の誘致を今後具体的に検討していく時期に入ること踏まえ、表現を修正し、病床配分を希望される場合は相談に応じ、より慎重に協議を行う旨をホームページ上で公表させていただきたい。
まとめ	阪神圏域において、病床配分を希望される場合はより慎重に協議を行う旨をホームページ上で公表することについて、圏域として承認する。	

(2) 公立学校共済組合 近畿中央病院の診療休止について

説明	市立伊丹病院 公立学校共済組合本部	○ 資料 2 に基づき説明。 ○ 想定以上の汚染土量が確認され、大規模な対策工事が必要となったことから、基幹病院の開院は令和8年8月から令和9年度後半を目指すこととなった。 ○ 近畿中央病院は、当初統合新病院が開院するまで、現在の診療を継続することを目指していたが、施設設備等の老朽化対策に莫大な費用を要し、人件費やエネルギーなどの社会的コストの上昇により赤字幅は拡大する等、解消の見込みが立っていないことから、令和8年3月に診療を休止する。 ○ 診療休止までの期間は、現行の診療体制を可能な限り維持し、入院・通院中の患者については診療休止までに近隣の医療機関への紹介を行い、引き続き適切な医療を受けていただけるよう準備を進めている。 ○ 近畿中央病院の跡地については、地域の医療需要を踏まえ、回復機能を有する医療機関を誘致する計画としており、今後も変わりはない。 ○ 令和8年3月の診療休止後、できるだけ速やかに、跡地に誘致する病院の運営が開始できるよう、跡地の活用に興味を持つ医療機関とのヒアリングを進めている。 ○ 統合新病院開院時において、希望する近畿中央病院の職員を市立伊丹病院で採用することについても、可能な限り先行した受け入れを検討している。
----	----------------------	--

質疑 応答	構成員	近畿中央病院の跡地活用について、現段階で建物の活用や解体等今後の方向性が決まっていれば教えていただきたい。
	公立学校共済組合本部	跡地活用について、興味のある法人は複数あり、一旦更地にして使用を希望されているところと、引き続きこの建物を活用したいというところと2パターンある。現在どちらの方法が適切かということについて、関係する医療機関にヒアリングを進めており、そこから条件を速やかに決めていく予定としている。

まとめ	近畿中央病院の休止が当初の予定よりも早まったが、伊丹市を中心に地域医療体制確保に向けた連絡調整会議も開催されており、これ以上統合新病院の開設が遅れる事態が生ずると、地域医療に不利益となるため、この会議としては、これまで進めてきた再編統合の枠組みを維持し、引き続き計画を進めていくことで協議が調った。
-----	---

2 報告

(1) 「2040年 在宅医療供給体制に向けての医療機関調査」結果について

説明	宝塚健康福祉事務所	資料3に基づき説明。
意見	構成員	訪問診療はどちらかというと無床診療所がメインで行っている。そのような状況で調べたことに、どれだけの意味があるのかよくわからない。 また、在宅から病院に緊急で入院、高齢者救急のような形で引き受けてもらうことの意味のほうが、現実問題大きいと思う。実際、在宅からなかなか入院させられない現状があり、それを受け入れた実績というのをむしろ調べるべきかと思うがいかがか。 在宅診療というのは意外と外からどれだけの先生たちが、どれだけの患者さんを診ているかというのが、現場ではわからない。現在足りているのか、将来的にどれだけ必要であるのか、そういった実態を調査すれば、非常に役に立つと思う。
意見	構成員	今の病院と有床診療所だけの調査では、おそらく実際の実施件数と乖離がある。実態としてはかなりの数の訪問看護が動いていると思うので、現在稼働している訪問看護ステーションが2040年に向けてどれぐらい提供可能なのか、もしくは今後どうなっていくのかを調べていくことが、この先の阪神北圏域の在宅診療を支えていけるかどうかの指標になるかと思う。全体として取り組むべき課題で、次回の調査に向けて検討いただけるとありがたい。
意見	構成員	無床診療所が訪問診療されている数が入っていないので、今後、無床診療所がどうなっていくかというところが必要。無床診療所の数を入れないと、今回の結果で将来安心ということには全然ならないと思う。
応答	宝塚健康福祉事務所	今後も在宅医療に関連した調査の必要性は感じており、いただいた意見は今後調査する際の参考とさせていただきたい。